

色々な人が
輪になっているような
イラストで
サークルを描く

“みとめ合い、役割を持ち、 支え合って生きる” 地域社会に

第4期 松本市地域福祉計画
(住民向け概要版)

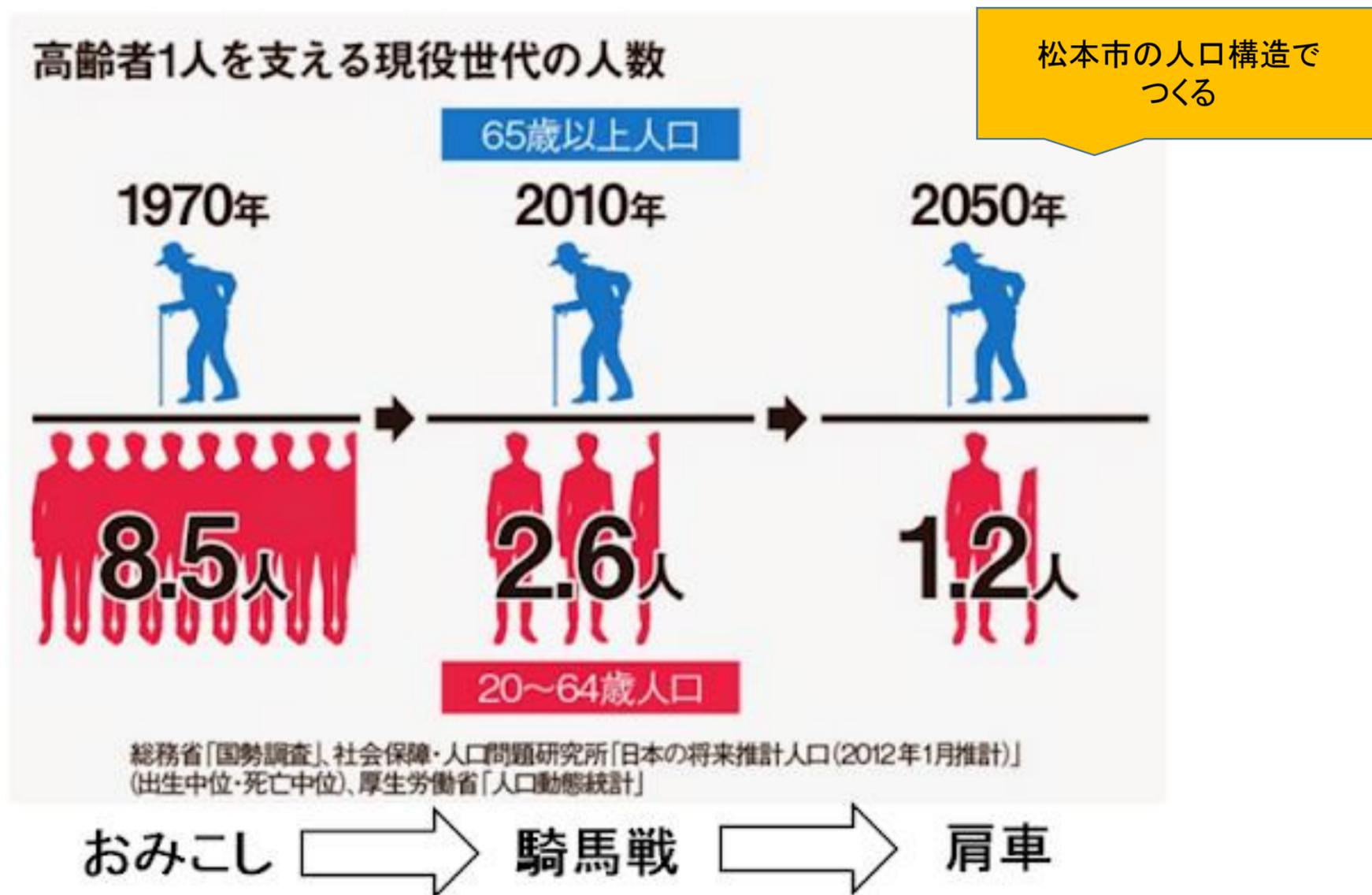
「人生100年時代」とも言われる長寿命化の一方で、若年層の人口が減少していく今後の日本では、これまでのように「支える側」「支えられる側」という関係が維持できなくなるほか、複数の課題を同時に抱え、社会的に孤立する世帯の増加が予想されます。

地域住民がお互いのみとめ合い、困ったときには頼り合うことのできる「地域共生社会」を作っていくために、市や関係機関、地域住民が行う取組みを示すため、「第4期 松本市地域福祉計画」を策定しました。

松本市

これからやってくる未来

～人口減少・高齢化のもと、支え手が不足する社会～



松本市においても、20～64歳の社会の支え手が減少し、65歳以上の世代が増加します。

この結果、65歳以上を支える20～64歳の人数が大幅に減少することで、地域の様々な課題に対応する担い手が不足することや困難を抱えた人が社会的に孤立化していくことが懸念されます。

人口減少により税収が減少し、行政の縮小が余儀なくされる流れの中で、市民と行政がどのような戦略をもって、福祉の地域づくりをしていくべきでしょうか。

これからやってくる未来をよりよいものにするために

～松本市地域福祉計画の3つの目標～

目標1

みとめ合う社会の
土壌をつくる

- 同じ地域に住む、さまざまな住民が、互いに関心を持ち、みとめ合い、協力できる関係をつくる

目標2

安心して生活できる
ケアを届ける

- 日常生活をおくるうえで必要な支援が公的な福祉サービスとして提供される体制をつくる
- それでも足りないケアが、近所や地域のなかで届けられるような支え合いの輪をつくる

目標3

困難な問題を解決する
仕組と体制をつくる

- 困難なケースに対応できる専門機関・専門家につなぐことで、当事者や周囲では対応が困難な問題の解決が図られる仕組と体制をつくる

住民と行政の役割分担

～よい地域をつくるためにそれぞれができることに取組む～

住民にできること

目標1

みとめ合う社会の
土壌をつくる

- 自分の身近な地域の人や資源、地域の課題を知り、自分に何ができるのかに関心を持ち、支え合いの輪に加わる



- 地域づくりセンター・公民館・福祉ひろばの活動を通じて、地域福祉の啓発、ボランティアの育成、居場所づくりなどを支援する

目標2

安心して生活できる
ケアを届ける



- 近所の気がかりな方の見守りや声かけ、簡単な手助けなど、支え合いの活動の輪に入って、できる範囲で、できることをする

- 高齢者、障がい者、子ども、外国人などの社会参加や健康づくりを支援する
- 日常生活をおくるのに支援が必要な市民に対して。福祉サービスの提供・相談支援などを行う

目標3

困難な問題を
解決する
仕組と体制をつくる



- 地域の福祉活動などを通じて感じた課題などを、市・社協などに伝える
- 住民の主体的な活動では解決できない困難なケースについて、専門機関や身近な窓口相談し、迅速で適切な対応につなげる

- 住民に近い機関から得た情報や困難な問題の相談に対応する
- こうした情報を蓄積し、問題の予防や対策のための多機関連携や住民との協働の仕組と体制をつくる

市の役割

第4期 松本市地域福祉計画の概要

基本理念

みとめ合い、役割を持ち、支え合って生きる

計画の期間

令和3年度から令和7年度の5年間

このページは
オフィシャルな情報をのせる

計画体系

目指す姿	基本目標	施策の展開
みとめ合い、 役割を持ち、 支え合って 生きる	1 みとめ合う社会の土壌づくり ～学びと交流～	1 福祉教育、意識啓発
		2 人材育成、担い手づくり
		3 つながりの場と関係づくり
	2 安心して暮らせるまちづくり ～福祉サービスの充実～	1 高齢者の福祉に関する取組み
		2 障害児・者の福祉に関する取組み
		3 成年後見制度の利用促進に関する取組み
		4 子育て支援に関する取組み
		5 こどもの福祉に関する取組み
		6 生活福祉に関する取組み
		7 健康づくりに関する取組み
3 困りごとを解決する仕組みづくり ～包括的支援体制～	8 再犯防止に関する取組み	
	9 防災減災に関する取組み	
3 困りごとを解決する仕組みづくり ～包括的支援体制～	10 多文化共生に関する取組み	
	1 包括的な支援体制の整備	